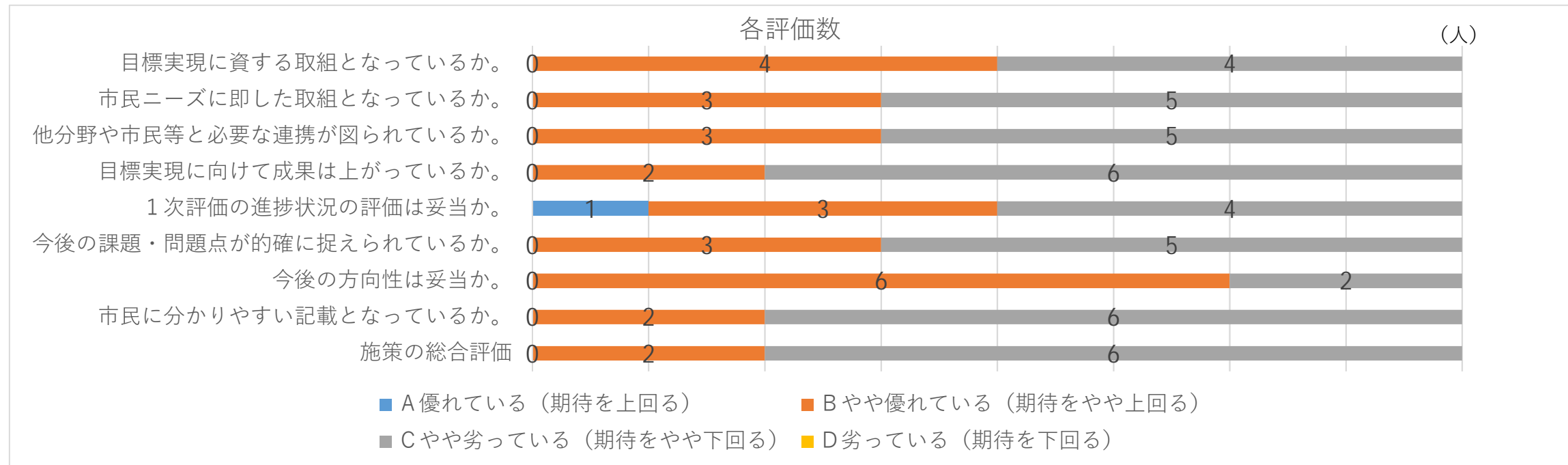


評価項目	A 優れている (期待を上回る)	B やや優れている (期待をやや上回る)	C やや劣っている (期待をやや下回る)	D 劣っている (期待を下回る)
目標実現に資する取組となっているか。	・白井市に定住してもらうための取組として見ると必要な支援を押さえている。	・概ねできている。	・ターゲットを定めたニーズ把握とそれらに対する対応が不十分である。	
市民ニーズに即した取組となっているか。		・一定数への効果はあるが、格差対策を講じるべき。 ・妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行うワンストップ拠点としての「子育て世代包括支援センター」は市民ニーズに合っている。 ・現場の各種委員と連携を図りながら、丁寧に委員の声をくみ取ろうとする姿勢や組織の壁にとらわれずに柔軟に共有する体制が整っている。	・ターゲットを定めたニーズ把握とそれらに対する対応が不十分。 ・市民のニーズを具体的に把握できているのかが不明。	
他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 (市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。) (各分野間で必要な連携が図られているか。)		・概ねできている。	・子育てしたくなる魅力ある環境づくりを目指した、分野横断的な発想が弱い。 ・評価シートから連携は読み取りにくく、まだまだこれからの感がある。 ・福祉分野と学校教育の連携や、市民活動との連携が図れる部分がある。子どもに関わる学校や施設等が、さまざまな専門機関や専門職とさらに繋がることのできる可能性を秘めている。	

評価項目	A 優れている (期待を上回る)	B やや優れている (期待をやや上回る)	C やや劣っている (期待をやや下回る)	D 劣っている (期待を下回る)
目標実現に向けて成果は上がっているか。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値だけを見るとDだが、現状や定性的なものはBのため、中間をとってCとした。 ・ これから成果が上がってくるという期待を込めてCとする。 ・ 実績値からCとする。 ・ 教育領域におけるシビル・ミニマムの実現を徹底させるべき。 ・ 定量的評価の実績値として見ると、複数の指標が年々下がってきており、成果が見えにくい。 	
1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 (1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童の数が増えている中で、1次評価を「おおむね順調」としていることはおかしい。 	
今後の課題・問題点が的確に捉えられているか (課題が的確に捉えられているか。)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を十分把握し、取組や改善が進みつつある。 ・ 子育て世帯が現在抱えている課題・問題に向き合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白井市の目指す姿が明確でないので、課題や問題点が的確に捉えられていないのではないかと、もう少しと考える。 ・ 児童・生徒の学力向上を図る意味でも、教員の働き方改革を推進して、子どもたちに向き合う時間を確保してほしい。 	
今後の方向性は妥当か。 (今後の方向性・進め方は的確か。)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱物ではなく、仕組みを構築していくという姿勢は評価できる。 ・ 一定数の人には効果がある取組だが、取り組むべき他の層や、新たな層への対策は必要。 ・ スピードを要するものもあるが、何より今の子育ては多様化しているため、民間との連携や地域差も視野に入れていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 方向性と実際の取組がマッチしていない。 ・ 行政が直接行わなければならないこと以外にも目を向け、行政以外にも問題を共有し、育てていくことがこれから問われる。 ・ 白井市が目指している姿について、具体的な方向性が明確でない。 ・ 地域教育の徹底が求められる。 	
市民に分かりやすい記載となっているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者目線で何が必要とされているのかを描く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民にきちんと取組が把握されていない、認識されていない、PR不足である。 ・ 誰に対して情報を発信するのがメインなのかわかりにくい。 	
施策の総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱モノではなく、市独自の仕組みを作っていくという市の方向性は正しいと考える。 ・ 子育てや保育の新たなサービスの準備を進めており期待できるが、少ない母集団による主観的なものを根拠とした定量的評価を指標として評価することに疑問があり、Bマイナスの位置づけとする。 ・ 定住を促すための今できる支援を確実にやっている点は評価できる。 ・ 効果が期待できない事業を休廃止したことは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元のことに無関心であり、人的交流が進んでいない。 ・ 白井市の人的資源を活用し、子どもに関する専門機関や専門職がさらに繋がって連携することができるのではないかと。 	

平成31年度外部評価における評価毎の主なコメント（対象：戦略3-2 地域拠点がにぎわうまちづくり）



評価項目	A 優れている (期待を上回る)	B やや優れている (期待をやや上回る)	C やや劣っている (期待をやや下回る)	D 劣っている (期待を下回る)
目標実現に資する取組となっているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・職員が通常業務もありながら頑張っていることも含め、気持ちの上でB評価。 ・四つの取組はそれぞれ理解できるが、意見交換の開催など、各地域への連絡も進展なく、実効性を高めるまでになっていない。 ・工業団地の道路の関係は進められているが、いまだ駅前（周辺）商業施設の活性化の取組は十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内のより一層の連携が必要である。 ・取組1がこの戦略の中心的なものだが、第二小学校区はやっと地域での交流が始まり、モデル地域として二つの学区が決まり、まだ目標も明示されていない状況。 	
市民ニーズに即した取組となっているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズの把握ができているのか。指標の「地域の課題解決のために地域住民で取り組んでいると思う市民の割合」が29年より低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と行政の双方で、何ができていないのかを明らかにしながら、焦点を定める必要がある。 ・ニーズの把握が必要である。 ・市民ニーズとは果たして何なのかをより深掘りし、吸い上げる必要性を感じた。 ・少子高齢化の中で、税収の落ち込みと福祉的支出の増加が見込まれるが、まだ市民の理解が薄く、取組が市民に受けとめられていない。 ・高齢化等でまちづくりなどのニーズが高まっていく、とあるが、自治会の衰退など深刻化していく課題とどう取り組むのか、具体策が欲しい。 	

評価項目	A 優れている (期待を上回る)	B やや優れている (期待をやや上回る)	C やや劣っている (期待をやや下回る)	D 劣っている (期待を下回る)
<p>他分野や市民等と必要な連携が図られているか。 (市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。) (各分野間で必要な連携が図られているか。)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階では発展途上であると見受けられるので、今後の展開に期待する。 ・ 自治体・他機関協働の連携を実施し、包括的な支援体制は地域ごとの資源の状況などの多様性を踏まえ、創意工夫をして柔軟に構築を進められるような制度設計をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と関係機関の繋がりもさることながら、市民同士・関係機関内での横の繋がりを深くする必要がある。 ・ 例として自治会の中でも、いろいろな役員の横のつながりができていない。 ・ モデル小学校区以外には情報も少なく、市民に浸透しているとはいえない。 	
<p>目標実現に向けて成果は上がっているか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しずつではあるが上がっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期的成果を求めるべきではない。 ・ 関連指標が悪くなっている。 ・ 成果という部分では未だ何とも言えない。取組自体は着々と進められているようなので今後に期待。 ・ まちづくり協議会の準備会ができたところで、まだ成果を求められる段階ではない。 ・ 要支援者名簿の整備や障害者施設の整備などは市民に伝わり成果が出ているが、すべてにおいて情報が少なく、市の地域に対する積極的な関与を期待したい。 	
<p>1次評価の進捗状況の評価は妥当か。 (1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「やや遅れている」という評価は妥当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「やや遅れている」となっているが、市民の認識度を考えたら仕方がない部分もある。 ・ 回答では進捗状況は理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次評価は妥当。定量的評価の数字が悪化しているものがあり、この取組への理解と、スピード感のある展開が必要に思える。 ・ 安心して暮らせる地域であると思う市民の割合が目標値に届いていないのは、そのとおりの評価だと思うし、実際にはもっと低いのでは。 	
<p>今後の課題・問題点が的確に捉えられているか (課題が的確に捉えられているか。)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 共働きの家庭が中心の中で、自治会が中心になって課題解決に向かうことは困難な状況。喫緊の課題に障がい者のことが上がっているが、この取組では無理がある。 ・ まちづくりの主体が市民にあることを踏まえ、住み慣れた地域での生活が安心して結び付くような環境整備に期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の諸活動を徹底検証していく中で、当該地域に何が求められているかを考える必要がある。 ・ 的確に捉えられているが、「まちづくりの主体は市民」が市民にどれだけ理解されるかがよくわからない。 ・ 駅周辺がにぎわうような仕組みづくりが見えてこない。 	

評価項目	A 優れている (期待を上回る)	B やや優れている (期待をやや上回る)	C やや劣っている (期待をやや下回る)	D 劣っている (期待を下回る)
<p>今後の方向性は妥当か。 (今後の方向性・進め方は的確か。)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の取り組みを段階的に絡ませ、分野横断的な取り組みの媒介にさせていくべき。 ・目指している方向性については概ね同意できる。問題は実践と検証・評価の仕方である。 ・中、短期ともに方向性としてはある程度必要なことと合意形成がなされるだろうが、担い手の育成となると時間がかかるものと思われる。 ・自主防災組織への支援制度の設立の検討を進めて欲しい。短期的な方向性をまず実施してほしい。 ・まちづくり協議会に関する方向性はよくわかるし、妥当と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人を育てる事業については、ターゲットを絞った方が良い。仕組み（拠点）づくりに関しては、まずは現状維持で良いと思われる。 	
<p>市民に分かりやすい記載となっているか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙が高齢者にとっても読みやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会活動によって何ができるようになるのか、イメージの拡がりを徹底させるべき。 ・市民サイドに適切に伝わっているとは思えない。伝える工夫とコミュニケーションの場づくりを。 ・施策名と取組名とがつながりにくく、市民にとってわかりやすい記載とは思われない。 ・モデル小学校区以外の校区の市民には情報が少なく、十分浸透しているとは言えない。（まちづくり協議会の存在さえ知らない市民は多い） ・まちづくり協議会の名称は「まちづくり審議会」の「地区まちづくり協議会」と混同する。 	
<p>施策の総合評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP等が障がい者や高齢者にとって読みやすくなった。見る（イラスト・写真）情報紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗が停滞気味のように思われる。市民ニーズの実態把握を行い、かつ、市民活動や行政事業の棚卸しが必要である。 ・指標が改善しておらず、今後の見通しがイマイチわからない。 ・まちづくり協議会の結成と担い手づくりが当面の課題だが、まだやっと準備会がモデル地域で立ち上がったところでこれからの進み具合を見守る状況と思う。 ・取組は高く評価できるが、市民生活に十分沿っているとは思えない。 ・取組が四つあるが、どれも同じ方向性であるかよくわからない。 	